



醇生菴產育全書內篇探領圖訣卷二

近江八幡 水原義博濟卿父著

門人

越後芝田 長谷川誠誠之

肥前佐嘉 北島常美維禎

較訂

救順產腹面術 附圖式

一種順產腹面ノモノ、前術ニ依テ之ヲ挽クニ、兒頭出  
ントスルニ當テ、會陰大ニ突脹シ、肛門ノ展開常ニ倍  
シ、陰門之ガ爲ニ、上部へ仰クモノアリ、コレ兒ノ後頂  
ニテ、緊シク會陰ヲ壓迫スル所由ナリ、探宮シテ之ヲ

產育全書內篇

卷二

一

醇生菴

79  
1179  
2



91-2383

候フニ、横骨上際ニ、兒額ヲ得ルモノナリ、兒ノ前髮際ヲ以テ之ヲ  
辨知 如此時ハ、圖ノ如ク左手掌ヲ以テ、緊ク會陰ヲ抱  
昂ゲ、右手食中二指頭ヲ、兒ノ額ヘ強クアテ、婦ノ背後  
ヘ推ヤル意ヲ帶ビ、左右相助ケ、カヲ極テ、上邊ヘ推轉  
ズヘシ、若誤テ下邊ヘ引、及ヒ會陰ノ抱持、慢ナル片ハ、  
會陰大ニ破レ、後年ノ患、淺淺ナラズ、最モ小心謹慎ナ  
ルベシ

救順產腹面圖



一種順產側面スルモノ、探宮シテ之ヲ候フニ横骨上  
 際ニ於テ耳輪ヲ得ルモノナリ、指頭ニテ左右ヲ探リ  
 ミルニ耳輪ノ向背ニ因テ指ニ觸ル、勢ヒノ強キ方  
 ト弱キ方トアリ、其弱キ強キヲ辨識シテ、兒ノ左面右  
 面ヲ分ツナリ、若其右面スルハ、法ノ如ク疏水術ヲ施  
 シ、能能兒頭ヲ推昂シ、次ニ第一圖ノ如ク、醫躰ヲ婦ノ  
 左偏ニヨセ、左手食中ニ指ヲ、産門ノ右側へ斜メニ深  
 ク進メ、探領器ヲ手裏ヨリ指頭ニ傍フテ進送シ、第二  
 圖ノ如ク、兒頭ニ隨テ、陰戸ノ上下へ斡旋シ、睡龍器ヲ  
 左偏ヨリス、メ

此時、横産用器、睡龍器ヲ用ルモ、法ノ亦佳ナリ、便ニ隨テ活用スベシ

如ク探領器ヲ聚合繫著シ、少シク左邊へ向テ、斜ニ産  
 脱スベシ、兒頭已ニ脱スルトヲ得バ、左右便ニ隨フ 医中指ヲ  
 陰門下邊ヨリ入レ、兒ノ左手ヲ脱セシメ、更ニ医ノ兩  
 手ニテ、兒躰ヲ抱持シ、少シ換テ、伏面ナサシメ、而後ニ  
 右手ヲ脱セシム、シカセザレバ、右肩、横骨ニ支碍シテ、  
 勾出シ難キモノナリ、其左面スルモノハ、即チコノ術  
 ヲ反用シテ可ナリ

救順產側面圖



同第二圖



一種順產額ヲ露スモノハ法ノ如ク疏水術ヲ施シ探  
 領器ヲ圖ノ如ク兩手ニ執テ横骨上際ヨリ徐徐ニ進  
 送スベシ此術兒頭ノ推送アシク又ハ器ヲ進ムルニ  
 鹿忽ナレバ尿管ヲ擦破スルコトアリ注意スヘシ次ニ  
 圖ノ如ク探領器ヲ陰門下邊へ斡旋シテ横産用器睡  
 龍器ヲ箝メカヲ極テ推轉スレバ兒頭母背ニ向テ轉  
 移スルガ故ニ自ラ正位ニ就クコトヲ得然後睡龍探領  
 二器ヲ抜去リ更ニ順産探領術ヲ照メ婉脱セシムベ  
 シ

救順産露額圖



一種順產、頤ヲ露スモノ、亦前法ノ如ク、探領器ヲ橫骨  
 上際ヨリ、兒面ヲ過テ、徐徐ニ進メ、橫産用器、睡電器ヲ  
 箱ノ之ヲ推轉シ、兒頂漸ク陰門ニ近ヅキ、向フモノハ、  
 順産治術ニ依テ、娩脱セシムベシ、若其イカニストモ、  
 正整ヲ得ザルモノハ、即チ橫産救術ニ從ヒ、陰門左右  
 ニ偏シテ、兒躰ヲ轉身覆倒セシメ、之ヲ出スヲ佳法ト  
 ス、治術橫産條下ニ酌用スベシ、凡百艱産、各其治術ヲ  
 施シテ、効ナキモノ、總テ覆倒セシムルハ、尤分娩シ  
 易シ、コレ予多年經驗ノ捷法ニ、疑ベカラザルモノ  
 ナリ

救順産露頤圖



一種順產陰門左右ニ於テ、兒頭一半ヲ得ルモノアリ、  
 之ヲ救フノ法、其右ニ偏ナルモノハ、先ツ探領器ヲ右  
 側ヨリ斜ニ進メ、コノ時、器ヲ進ムルニハ、陰門右側ヨリ、右ノ髖骨ニ傍テ、十分ニ斜メニ進  
ガレバ、兒頭ノ緊迫甚シキカ故順產側面救術ノ如ク、  
ニ、器支碍シテ、進ミガタキナリ器ヲ上下ヨリ左邊へ斡旋シ、橫產用器、磁甕器ヲ籍メ、  
 医婦ノ右へヨリ、圖ノ如ク器ヲ執リ、陰門左邊へ向テ  
 推送スベシ、兒頭整正ナラバ、順產治術ニ從フベシ、若  
 ソレ左ニ偏ナルモノハ、之ヲ反用ス、若コノ術ニテ兒  
 頭產門ニ對ハザルハ、ソノマ、右邊ニ傍テ反送シ、覆  
 倒シテ之ヲ出スベシ

救偏產圖



產科全書 卷二 七



救橫產難挽及屬症變產術 並圖

橫產手膊ヲ露シ分挽セザルモノ先ツ露ス所ノ手指  
 ヲ檢認シヨク其左右向背ヲ辨シテ兒頭ノ左邊ニ在  
 ヤ右邊ニ在ヤヲ的知シ而ノ其兒頭左ニ横夕ハルモ  
 ノハ第一圖ノ如ク露ス所ノ兒手ニ横產用器ヲ籍シ  
 ヨクノ腋下一當著セシメ医左手ニ兒膊ト其器ト  
 ヲ緊シク束子持チ右手ニ器端ヲ堅ク執リ左手ノ兒  
 膊ヲ挽ク勢ヒト右手ノ器ヲ進ル勢ヒト左右勢ヒト  
 ナシテ婦ノ右脇へ向斜メニ推轉力送スベシ 此時手  
モト昂  
ル中ハ器支碍シテ進ミ難シ產婦ノ高低ニ随ヒ兒胎  
手モトヲ随分低下シテ器ヲ推送スベキナリ

漸ク轉スルヲ得バ乃チ横產用器ヲ脱シ去リ 此器  
ヲ去  
ルニハ先ツ睡龍器ヲ脱スレバ探領器樞ユルミテ自  
ラ脱シ易シ若妨碍シテ出難キ片ハ兩手ニ器端ヲ一  
本ツ執リ微揺シ 第二圖ノ如ク医體ヲ婦ノ右邊ニ  
ナカラ拔去ベシ  
 轉シ右手ノ食中二指ヲ兒臀ノ上端へ斜ニ深ク進メ  
 左手探領器ヲ執リ右手指裏ニ沿へ徐カニ進送シ次  
 ニ兒臀ニ隨テ器ヲ上下へ分旋シ若シ器妨碍シテ旋  
 リ難キ片ハ探領器ヲ睡龍器ノ尾孔へ穿住シ 第三圖  
ノ如ク徐徐ニ轉旋スベキ也而後探領器端ヲ執テ引  
キ試ミ能能臀尻ニ懸住シ了ラバ第四圖ノ如ク奪珠  
器ヲ籍ノ雙手カヲ併セテ右邊へ斜ニ扯ベシ兒臀漸

產育全書 卷二 八  
 轉

ク産門ニ近ツクヲ得バ、乃チ探領器ヲ脱シ去リ先  
奪珠器ヲ去、次ニ探領器ヲ、上下第五圖ノ如ク右手ノ  
便ニ随テ、一方ヘ引キ去ルベシ食指、又ハ中指ヲ陰門下邊ヨリ深ク進メ、兒ノ股間ヲ  
 探リ得テ先ツ下邊ノ足ヨリ勾出スベシ、一足已ニ出  
 ルヲ得バ、其足ヲ執テ、陰門下邊ヘ扯ヨセ、更ニ一足  
 ヲ勾出スベシ、此足ヲ探ルニ法アリ、下足ヲ探ルニハ、  
 右手ヲ用ヒ、上足ヲ探ルニハ、左手ヲ用  
 フ若指頭兒股ニ達シ難キ片ハ、探股器ヲ以テ勾引ス  
 ルモ亦佳ナリ、兒股、陰門ニ近ツカバ、指  
 頭ヲ用テ勾出スベシ兩足既ニ出ナ  
 バ、綿衣ニ包ミ扯出ス也、然ラザレバ、滑液淋漓トシテ、  
 カヲナシ難シ、若又兒ノ腋下ニ到テ、支碍スル片ハ、陰

門下邊ヨリ、指ヲ進メ、兒腕ヲ探リ得テ拘脱スベシ、腕  
勾出スルニ、右ヲ出スニハ、兒体ヲ左ニ偏ヨセ、右指ヲ  
 用テ勾引シ、左ヲ出スニハ、兒体ヲ右ニ偏ヨセ、左指ヲ  
 用テ勾引又兒ノ項領ニ到テ支ル片ハ、第六圖ノ如ク  
 右手食中二指ヲ、陰門上邊ヨリ進メ、兒ノ枕骨ニ到シ  
 メ、左ノ中指ヲ陰門下邊ヨリ進メ、兒ノ口中ニ拘シ、上  
 ヲリ推スト下ヨリ引ト、兩手勢ヒヲナシ、医鉢ヲ聳シ  
 ツ、轉脱セシムルナリ、惟、妄リニ扯片ハ、斷頸ニ至ル  
 トモ、決シテ婉脱セヌモノナリ、互ク常時煨煉シテ、事  
 ニ臨ミ、救治ヲ謬ルヲ勿レ、若死胎日ヲ經ルニ因テ、支  
 鉢腐爛シ、緊シク扯バ、頸斷ノ恐レアルモ、第七圖

ノ如ク、頸斷用器ヲ、陰門下邊ヨリ徐徐ニ進メ、順産第  
 一圖ノ如ク左手食中二指頭ニテ器ヲ承ケナカラ、子  
 官上邊へ昂轉シ、器頭兒ノ百會アタリニ抵ル頃ヲ候  
 ヒ、器端ヲ執テ緊ク引推ノ、左手ニテ器ノ陰門ニ迫キ  
 部ト、網ノ下端トヲ併セ將テ、十分ヒク意ヲ帶ビ、右手  
 ハ第六圖ノ如ク、上邊ヨリ推俯スル意ニテ極ヒ出ス  
 ベシ、

横産第一圖



產科全書中卷二  
 西生者痛凡  
 十

同第二圖



醉生齋藏版

同第三探領  
送轉一法圖



同第四圖



同第三圖

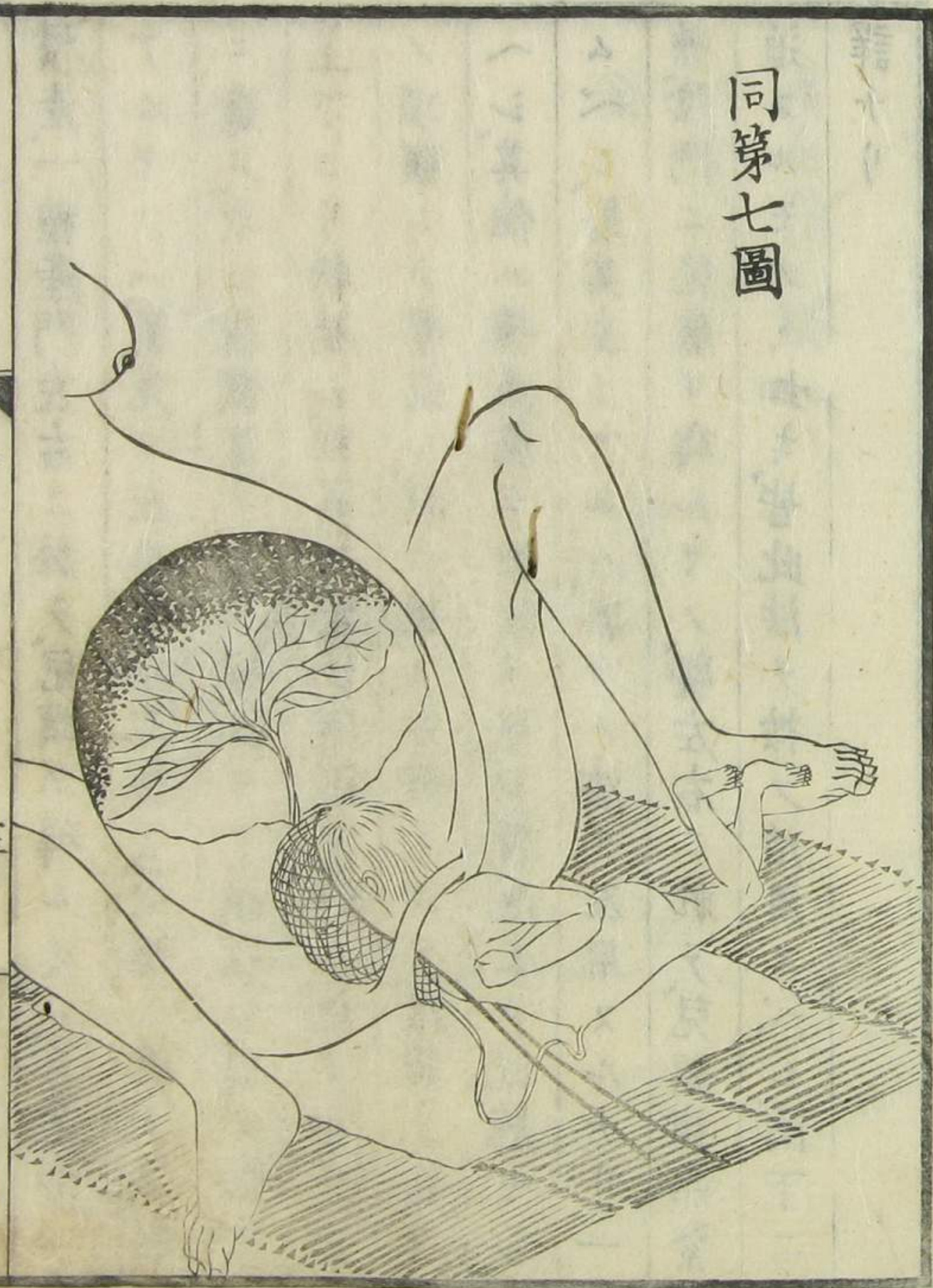
同第五圖



同第六圖



同第七圖



横産、一種産門左右ニ於テ、兒頭ヲ得ルモノ、若其右ニ  
 アルモノハ、医先ツ左手食中二指ヲ、兒面ニ傍フテ、斜  
 ニ進メ、次ニ探領器ヲ、二指裡面ヨリ進送シ、法ノ如ク  
 上下ヨリ斡旋シ、横産用器、睡竜器ヲ箱シ、圖ノ如ク兒  
 ノ項頸ニテ繫束シ、斜ニ婦ノ右脇ニ向テ、推轉上送ス  
 ヘシ、其他ハ横産露手敗法ヲ照シ、覆倒シテ、娩脱セシ  
 ムベシ、若其左ニアルハ、亦コノ法ヲ反用スルナリ、一  
 種、陰門ニ兒肩ヲ得ルモノ、暨左右ニ於テ、兒頭諸部緊  
 迫スルモノ、如キ、皆此法ヲ按ノ活用スベシ、圖下ニ  
 詳ナリ

西生者

横産得兒頭  
 於産門左右

圖



產婦全書

橫產得兒項  
於產門左右  
圖



西生者病

同第二圖



產婦全書

十五

傳主卷藏版



產科全書 卷之二 西生者類方

横産、一種兒背ヲ露シ、手膊ヲ得ルヲ能ハザルモノ、先  
 ツ兒頭ノ右ニアルヤ、左ニアルヤヲ、詳ニ辨認シ背得  
 ルモノ、位置尤難シ、大抵兒背上部ニ在テハ、肩髑  
 骨格、下部ニ在テハ、腰蓋骨格等ヲ探リ、以テ左右ヲ定  
 ムベシ、若其右ニ在ルモノハ、探領器ヲ右邊ニ傍テ、十分  
 深ク進送シ、上下へ幹旋シテ、圖ノ如ク兒ノ上臑ヲ縛  
 束シ、横産用器、睡電器ヲ藉シ、斜ニ婦ノ右脇ニ向テ、推  
 送スヘシ、餘ハ露手救術ニ同シ、兒頭左ニ在バ、此ヲ反  
 用ス、一種兒ノ胸腹ヲ露スモノアリ、亦能左右ヲ辨シ、  
 コノ術ニ依テ活用スベシ

横産  
得兒  
背圖



橫產得兒腹圖



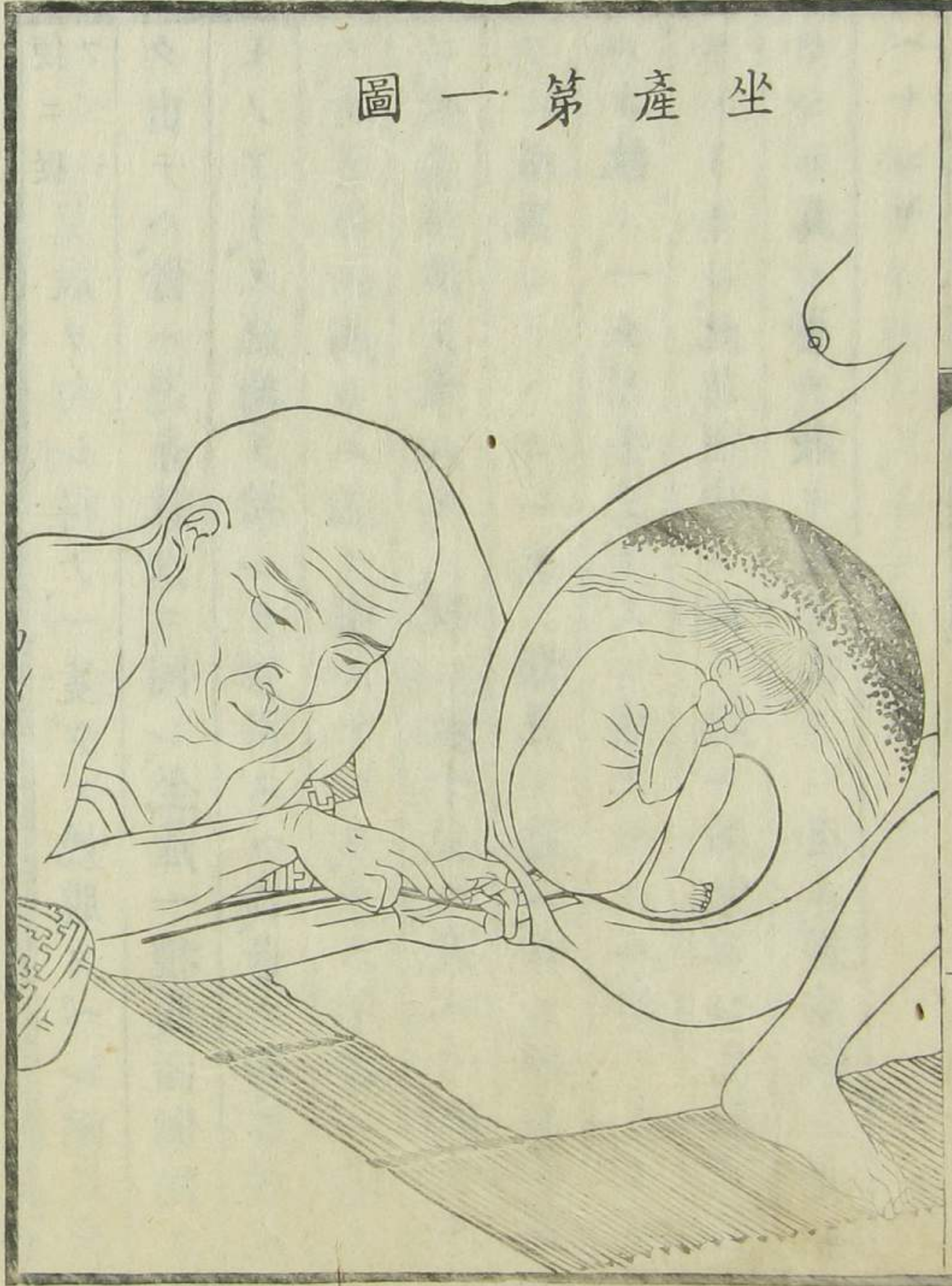
橫產、一種兒ノ兩手ヲ露スモノ、若其長短アラバ、長キ  
 方ヨリ扯ヨセ、橫產用器ヲ箝スベシ、若其長短ナキハ  
 下邊ニ在ル手ヨリ、器ヲ箝スベシ、又一種兒ノ一手一  
 足ヲ露スモノアリ、此ハ長短ト上下トニ拘ラズ、直チ  
 ニ其足ヲ捉テ挽引シ、覆倒シテ之ヲ出スベシ、必ス手  
 ヲ扯クヲ勿レ、凡衆難產、イカホド變態ノモノトイヘ  
 凡、兒足ノ少シニテモ手ニ觸ル、ハ、他ノ證候ヲ顧ズ、  
 直チニ其足ヲ捉テ扯出ス、最便易ノ佳法トス、假令  
 手ニ觸ズトモ、近キ部ニアラント思フ、凡ハ、百法シテ  
 索メ出スベキナリ

救坐產難挽及屬症變產術 並圖

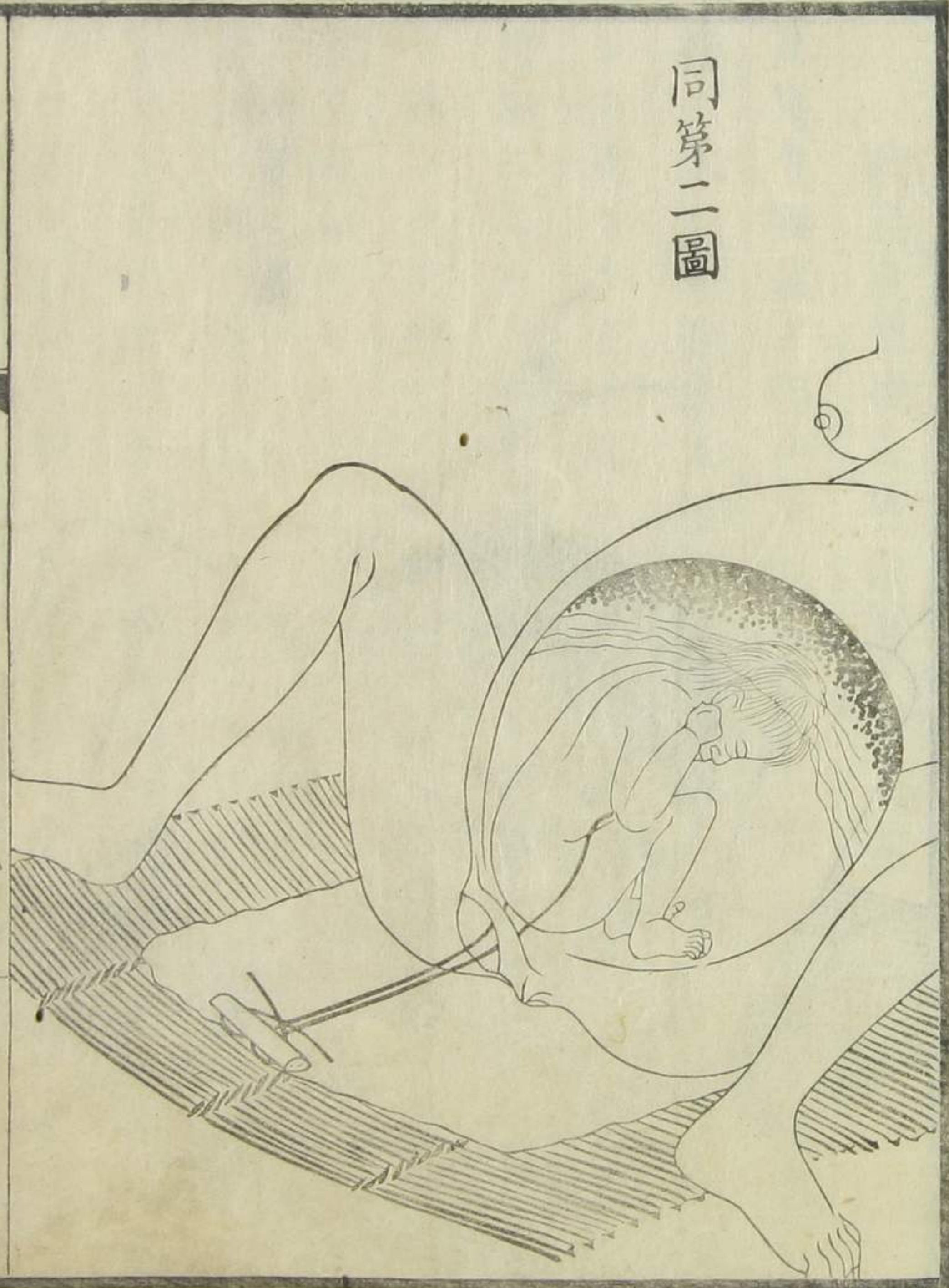
坐產兒ノ臀尻若クハ腰蓋骨手ニ應スルモノ、医先ツ  
 右手ノ食中二指ヲ、ソノ露ス部ニ堯住シ、婦ノ前腹へ  
 向ケ、幾回モ送轉シ、少シニテモ、兒服ノ陰門ニ迫ツク  
 様ニスベシ、次ニ第一圖ノ如ク、探領器ヲ進メ、兒尻兩  
 傍ニ隨テ、上邊へ轉旋シ、若器支碍シテ、マハリ難キ片ハ、横産第三圖ノ如ク、睡竜器  
ノ尾孔ニ箝シ、第二圖ノ如ク、兒ノ腰間ニテ緊シク繫  
 上送スベシ、  
 住シ、奪珠器ヲ箝シ、之ヲ陰門下邊へ扯ベシ、兒臀漸ク  
 陰門ニ臨ミ、迫ツキ、指頭股髀ニ達スベキ程ニ至ラバ、  
 器ヲ脱シ去リ、脱スルノ法、横産第中指ヲ深ク進メ、左  
四圖解ニ詳ナリ

便ニ從兒服ヲ勾シ得テ、一隻ヅ、挽脱スベシ、兩足齊  
 ク出テハ、餘ハ逆産救法ニ同シ、坐産一種、腹面側面ノ  
 モノアリ、又此術ヲ按シテ活用スベシ、世ノ鈎胎者流  
 ハ、坐産無生胎トノ説ヲ唱ルナレ、予多年之ヲ驗ル  
 ニ、坐産活胎ヲ舉ルモノ、既ニ數十兒ニ及ベリ、因テ顧  
 フニ、彼家ニテハ、コレヲノ難危ニ遇バ、必ス鑿鈎ヲ用  
 ルカ故ニ、一タビ手ヲ下スニ値フモノハ、盡ク死ヲ免  
 ル、一ナシ、此其誣説ノ由テ起ル所歟、蓋シ其拙ヲ藏  
 サシカ爲ニ、世ヲ欺キ、生ヲ傷フニ至ル、豈浩歎セザル  
 ベケンヤ

坐產第一圖



同第二圖



同第三圖



救逆產難挽及屬證變產術 並圖

凡逆生兩足ヲ得ルモノ、医右手ノ中指ヲ、兒ノ股間へ  
 指シ入レ、食指無名指ヲ、兩股外側ニ傍へ、三指ニテ緊  
 シク夾ミナガラ之ヲ扯ベシ、若血液淋漓トシテ、指手  
 滑脱スルモノ、横産覆倒法ノ如ク、綿衣ニ包ミ之ヲ扯  
 ヲ佳トス、兩腋及項領ニ妨碍スルモノモ、亦覆倒法ニ  
 依テ挽脱セシムベシ、

逆産一種、一足ヲ露シ、一足深キニ在テ、手頭達シ難ク、  
 妄リニ之ヲ扯バ、脱臼ノ恐レアルモノ、及死胎日ヲ經  
 ルニ因テ、筋肉腐壞シテ、緊引スベカラザルモノ、先ツ

其露シタル足ヲ取り、陰門下邊へ引ヨセ、次ニ探領器  
 ヲ横骨上際ヨリ進メ、左右ヨリ下邊へ斡旋シ、横産用  
 器、睡龍器ヲ箝シ、圖ノ如ク兒ノ腰眼章門ノ邊ヲシカ  
 ト括束シ、露ハシタル一足ト、箝シタル器トヲ併セ握  
 リ、カヲ極テ緊ク扯ベシ、兒臀漸ク陰門ニ近ヅキ、探宮  
 シテ之ヲ候フニ、指頭、兒ノ股間ニ抵ルヲ得バ、二器  
 ヲ脱シ去リ、指頭ヲ以テ一足ヲ勾出スベシ、兩足既ニ  
 齊ク出バ、上法ヲ照シテ、婉解セシムベシ、若シ兒腹面  
 スルト知ラバ、引クニ隨テ漸ク背面セシムベシ

逆産一足圖

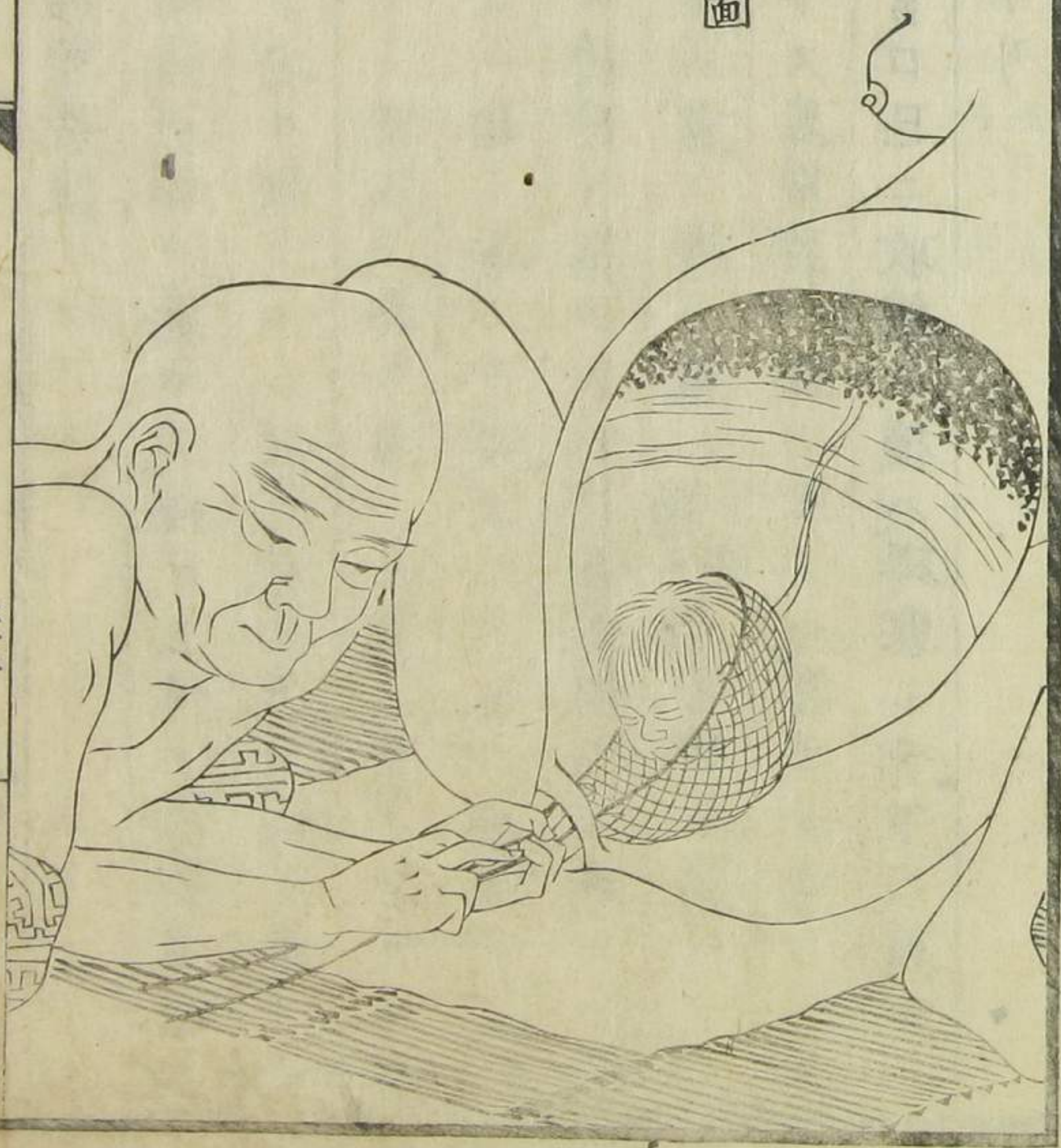


逆産一足圖

救頸斷兒頭遺宮內術 並圖

凡逆產手足已ニ出、兒頭支碍シテ婉セザル者、生硬鹿  
 暴ノ徒、他ヲ顧ズシテ、妄リニ之ヲ扯、或ハ難產胎死シ  
 テ日ヲ延キ、支體壞爛スルモノ、坐婆謬テ之ヲ扯等ニ  
 由テ、兒頸之カ爲ニ斷切シテ、宮内ニ頭遺ル一アリ、探  
 宮スルニ轉滑シテ捉ヘ難ク、水ニ泛ベル瓜ノ如シ、之  
 ヲ治スル法、先ツ人ヲシテ、兒頭ヲ橫骨上際ヘ、シカト  
 按住シ、轉移セザラシメ、頸斷用器ヲ、陰門下邊ヨリ進  
 メ、兒頭ニ傍テ幹旋シ、圖ノ如ク其羅ヲ兒頭ニ繞ヒ、扯  
 出スベシ

救頸斷圖



救孿胎艱娩訣

凡孿胎其順逆橫偏ヲ論セズ、總テ上件ノ諸術ヲ照シ、  
 機變ニ隨テ之ヲ救フヘシ、但夫雙胎俱ニ娩シ畢ラザ  
 ル間ハ、遽テ、胞衣ヲ扯下勿レ、鹿漫ノ徒、一胎已ニ娩  
 スル片、尚又一胎ノ有ルヲ辨ズシテ、妄ニ臍帶ヲ緊引  
 シテ、圖ラズ後胎ヲ傷フアリ、若雙胎已ニ娩シテ後、  
 尙胞衣不下ハ、急ニ術ヲ施シ術下條ニ詳陰門口邊マテ出  
 シ置テ佳トス、蓋雙胎一胞ノモノハ、其大サ常ニ倍ス  
 ルカ故ニ、宮口已ニ收縮ノ後ハ、碍塞シテ下リ難キ  
 ノアレバナリ

回轉術 不假器械 救難娩法

凡コノ術ヲ施サントセバ、先探領術ノ尊ヲ設ル法ノ  
 如クニ仰卧セシメ、探官シテ、順逆橫偏及ヒ陰戸ノ廣  
 潤ナルヤ狹窄ナルヤヲ認メ、其廣潤ナルニハ、コノ術  
 施シ易ク、其狹窄ナルニハ、器械ヲ假ルニアラザレバ、  
 能ハズ、先コノ術ヲ施サントセバ、手ニ家方滑液汁ヲ  
 塗抹シ如シ破漿漏レ尽テ、陰戸乾燥スル者ハ、潤胞器  
 ヲ以テ、同ク陰中ヘモ亦合餘ヲ灌クベシ、方試  
 驗方 五指ヲ聚合シテ、圖ノ如ク陰門下邊ヘ進メ、四指  
 頭ヲ陰戸ノ腔ニ進メ、手背ヲ以テ、會陰ヨリ肛門ノ方  
 へト押シ付ケ進ム 拇指ノ爪甲ハ、兒頭力息來ル片ハ、  
 及ヒ橫骨ニ當ル



少シク手ヲ扯緩メ、力息止ムヲ待テ、又手ヲ進ムベシ、  
 手背已ニ膠骨ノ半ニ至ラバ、兒頭ニ支ヘタル拇指ヲ  
 圖ノ如クハツシ、徐徐ニ進メ、掌裏ハ兒面ヲ受ケ、母ノ  
 前腹ヘ向ケテ擠排シ、仍徐徐ニ兒ノ胸腹ニ傍テ、手膊  
 ヲ深ク容レ、兒ノ膝間若クハ膝ヲ得バ、再ビ中指ヲ深  
 ク進メ、兒ノ膝ヲ強ク拘シ、徐次ニ扯キ、兒ノ一脚ヲ得  
 バ圖ノ如ク踵ヲ医ノ食中ニ指ヲ以テ握リ、腔中マデ  
 扯ヨセ、再ヒ手ヲ進メ、他ノ足ヲ探得バ、前術ノ如ク扯  
 寄セ、兩足已ニ揃フ片ハ、食中無名ノ三指ヲ以テ兒ノ  
 踵ヲ固ク握リ、一勢ニ是ヲ扯出スベシ、兒自ラ轉身ノ

容易ク出ルモノ也、然レ凡陰戸狹隘ノ者ニ在テハ、兩  
 足ヲ併セ捉扯一甚難シ、故ニ先ツ一足ヲ陰戶外ヘ扯  
 キ、又後ニ他ノ足ヲ扯キテ、兩足既ニ出バ、俱ニ綿衣ニ  
 包ミテ扯ベシ、已ニ臀肛ニ至ラバ、徐徐ニ兒ヲ背面ニ  
 廻旋シ引クヲ要トス、順產ヲ回轉スル時ハ、兒仰面シテ、  
 頷頤、橫骨ニ碍リテ出ガタシ、  
 故ニ廻旋已ニ胸肋腋下ニ及テハ、橫產第六圖ノ法ニ  
 依テ婉脱セシムベシ、○若八九个月、顛仆ニ因テ破漿  
 シ、或ハ子癩ノ症ニ、破膜術ヲ用  
 テ後、努力少ク、子宮口難開モノ、先ツ回轉術ノ如ク、手  
 ヲ陰門ヘ進メ、食中ニ指頭ヲ、子宮口ヘ進メ入レ、徐徐  
 ニ、指ヲユスリ、コシ、指脚ニ至ラバ、指ヲ引キ、又次ニ食  
 中無名ノ三指ヲ進ムル、前ノ如ク、次ニ又食中無名  
 小ノ四指ヲ齊ヘ、刺メ入レ、又次ニ拇指ヲ添ヘ、五指已  
 ニ入片ハ、子宮口全ク開ク也、コノ時、手ヲ小指ノ方ヘ、

子チナガラ押シ進ムル  
快ハ、全手宮中へ入易シ

或人問云、臨產時日ヲ經テ、破漿已ニ漏レ、兒頭陰戶ニ  
迫ル者、回轉術ヲ用ルニ、手ヲ進ルノ餘地アルト何如  
答云、兒頭全ク腔中ニ降ルモノハ、全手進メ難シ、兒ノ  
位置正シカラザルニ由リ、兒頭橫骨ニ支ルヲ以テ、分  
娩セザル者ハ、腔中固ヨリ穢積多シテ、腔中ノ穢積ハ、  
陰門圖解ヲ見  
テ知ルベシ、兒頭ノ出ベキ餘地アリ、今兒頭橫骨ニ支ヘテ、  
腔中ニ至ラズ、是故ニ家方滑液汁ヲ手ニ塗リ、カノ穢  
積ヲ展舒セシムル片ハ、全手即チ入ト得、又問、其手  
子宮ニ入テ、平穩ニメ、痛癢ヲ知ガルハ何ゾヤ、答フ子

宮裡面ハ、經絡海綿狀ノ如キヲ以テ、神經ヲ隔ツル故  
ニ手ヲ進ムト雖、痛癢スルトナシ、問者唯唯シテ退ク、  
今斯ニ記シ舉テ、後生ノ廣識ニ備フト云

今茲戊申十二月、東洞院綾小路、内田屋某婦、初産臨盆、  
四日ヲ經テ、娩セズ、予カ治ヲ請フ、門人北島維禎、田尻  
宗彦ヲ伴ヒ往テ之ヲ診ス、カ息已ニ止ミ、口乾燥シ、食  
スルト能ハズ、脈微弱ニメ正ニ厥冷セントス、由テ大  
劑ノ茯苓四逆湯ニ、洎夫藍ヲ兼用シ、先ツ探宮シ、之ヲ  
候フニ、兒頭橫骨ニ支ヘ、既ニ破漿シ、陰中乾枯シ、臭氣  
尤甚シ、由テ是胎ノ腐爛ヲ察知セリ、是ニ於テ二子ニ

命シ、同轉術ヲ施サシメント欲シ、先ツ宗彦子ヲシテ、  
潤胞器ヲ以テ、家方滑液汁ヲ、陰門へ多ク灌キ入レ、又  
手ニ塗リ、法ノ如ク手指ヲ聚合シ、陰門下邊ヨリ、兒面  
ニ傍ヒ、徐徐ニ進メ、兒ノ一脚ヲ得テ之ヲ腔中マデ扯  
キ寄セ、婦ヲメ少息セシメ、予側ニ居テ仍前劑ヲ累リ  
ニ投シ、又維禎子ヲメ之ニ代ラシメ、左足ニ傍テ他ノ  
一脚ヲ探得テ、雙足已ニ揃ヒテ、陰戶外へ引キ、已ニ臀  
肛ニ及ンデ、兒漸ク同轉ス、因テ綿衣ニテ兒足ヲ包ミ、  
背面ニ廻旋シ、徐徐ト引キ、腋下ニ至レバ、手膊ヲ勾出  
セリ、又項領ニ至テ支ヘタリ、由テ法ノ如ク、右手食中

二指ヲ、陰門上邊ヨリ進メ、兒ノ枕骨ニ到ラシメ、左ノ  
中指ヲ、陰門下邊ヨリ進メ、兒ノ口中へ入レテ、下髆ヲ  
拘シ、上ヨリ推シ、下ヨリ引キ、両手相應シ、轉脱セント  
スレ、凡、兒頭大ニメ出難シ、此ヲ強テ引カバ、下髆斷セ  
ン、故ニ予一計策ヲ生シ、手巾ヲ以テ、兒ノ項ヨリ肩ニ  
掛ケ、腋下ニ廻シ、手巾ノ兩端ヲ一緒ニ握リ、維禎子ハ  
前術ヲ施シ、宗彦子ハ力ヲ扶ケテ此ヲ引キ、兩生、力ヲ  
勦セテ一齊ニ扯キ、竟ニ婉脱セリ、爾後前劑ヲ與ヘテ  
調養ス

順產  
回轉  
術  
第一  
圖



同  
第二  
圖



同第三圖



今茲戊申夏五月、東洞院四條下ル、松岡某ノ婦、年四十  
 許、臨盆、兒手膊ヲ露メ、娩セズ、先ニ産科専門ノ一医來  
 テ、鍬鈎ヲ以テ兒肩ヲ勾破シ、已ニ斷ントスルニ至レ  
 卅分、娩セズ、於是予カ治ヲ請ヘリ、門人長谷川杏菴ヲ  
 伴ヒ之ヲ診ス、脈症幸ヒニ虛候ナシ、探宮之ヲ候フニ、  
 兒領横骨ニ支ヘナリ、圖ニ詳手膊ハ正ニ斷セントス、是ニ  
 由テ器械ヲ假ラズ、同轉セシムルニアラザレバ、不  
 可救ト議シ、圖ノ如ク五指ヲ聚合シテ、兒ノ膊ニ傍テ、  
 胸腹ニ及ボシ、遂ニ右足ヲ得テ、腔中マテ引出寄セ、杏  
 菴子ヲメ代ラシメ、其足ニ手ヲ傍ヘ進マシ、又右足ヲ

引寄セ、竟ニ回轉セシメ、一齊ニ娩脱ス、尔後調養シテ  
全愈セリ

今茲戊申秋九月、六角富小路風呂敷屋某ノ妻、初産臨  
盆、カ息來ルヲ常ノ如シ、因テ穩婆之ヲ探官スルニ、兒  
ノ右手ヲ得、其横産ナルニ驚キ、急ニ予カ治ヲ請フ、往  
テ診スルニ、産婦未ダ疲勞セズ、探官スルニ初産トイ  
ヘ、戸陰戸廣濶ナリ、是ニ於テ回轉術ヲ施シ、速ニ分娩  
シ、兒忽然トシテ發聲セリ、隱婆及一坐愕然トシ、予カ  
術ノ速ニ感歎ス、後、桂枝茯苓丸料加芍歸ヲ與ヘ、不日  
ニシテ全ク愈

横産回轉術圖



三十九  
享正卷七反

母子兩斃術

難婉母子其二斃ル、モノ之ヲ分身セシメント欲ス  
ルニハ、都テ回轉術ヲ用ルヲ、捷法トス

因ニ記ス、世間懷身ノ婦、不婉シテ卒ニ斃ル、モノ、  
胎兒ヲ併セテ葬ルヲ忌ム、此一二ハ死母ノ遺念  
ヲ遂シメ、一二ハ胎兒ノ未死モノ有ルヲ慮ルカ故也  
宋劉敬叔異苑載、元嘉中、沛國武漂之妻、林氏懷妊、得  
病而死、俗忌含胎入柩中、要須割出、妻乳母傷痛之、乃  
撫尸而祝曰、若天道有靈、無令尸被擘裂、須臾尸面赭  
然上色、於是呼婢共投之、俄頃兒隨、而尸倒、宋二在

テ、已ニ此事アルハ、俗忌ノ由ル所、亦一日ニ非ス  
又死母活胎ヲ婉スルモノ、如キハ、歐陽玄暎車志  
謝肇淩塵餘、王同耳談、及ヒ洗冤錄、無冤錄等、皆ソノ  
事ヲ載ス、本邦永澤寺通幻禪師扶桑僧傳ニ詳ナリ伊豫松  
山大林寺學信上人續崎人傳ニ出等ノ出身、探見聞コ比比  
タレハ、此事無ト云ベカラズ、予カ同國蒲生郡八日  
市、宋屋久五郎ト云モノ、母、妊娠十月、疾ニ因テ死  
ス、茶毗スルニ及テ、胎兒免脱シ、忽然トノ聲ヲ發ス、  
傍人大ニ驚キ急ニ救ヒ出シ、家ニ還ル、遂ニ長シテ  
七十餘ノ壽ヲ保テリ、即チ久五郎是ナリ、郷人今ニ

至テ奇談トナス此ニ由テ之ヲ觀レバ其母已ニ斃  
ル、モノト雖必ス之ヲ分身ナサシメ而後葬事ニ  
及フベシ會テ聞ク僻境野俗或ハ母腹ヲ割テ胎兒  
ヲ取ルモノ有ト果メ如此ハ其不仁尤モ憎ムベキ  
ニ堪タリ故ニ今詳ニ手術ヲ講シ且ツ奇談數件ヲ  
舉テ以テ俗忌ノ據アルヲ徴シヌ

產育全書內篇二





